



化石燃料の未来に 立ち向かう

再生可能エネルギーが豊富な東南アジアで
ガスによる遠回りの阻止を

514,540 MW

アジア

世界で開発中の新規ガス発電の
65%以上はアジアにある

44,973 MW

北米

65,699 MW

ヨーロッパ

85,691 MW

中南米 及び
カリブ諸国

70,418 MW

アフリカ

2,024 MW

大洋州

14,836 MW
中央アジア

217,740 MW
東アジア

78,105 MW
西アジア

139,000 MW*
東南アジア

72,101 MW
南アジア

東南アジアで139 GWのガス発電所計画

輸入と輸出:

輸入能力

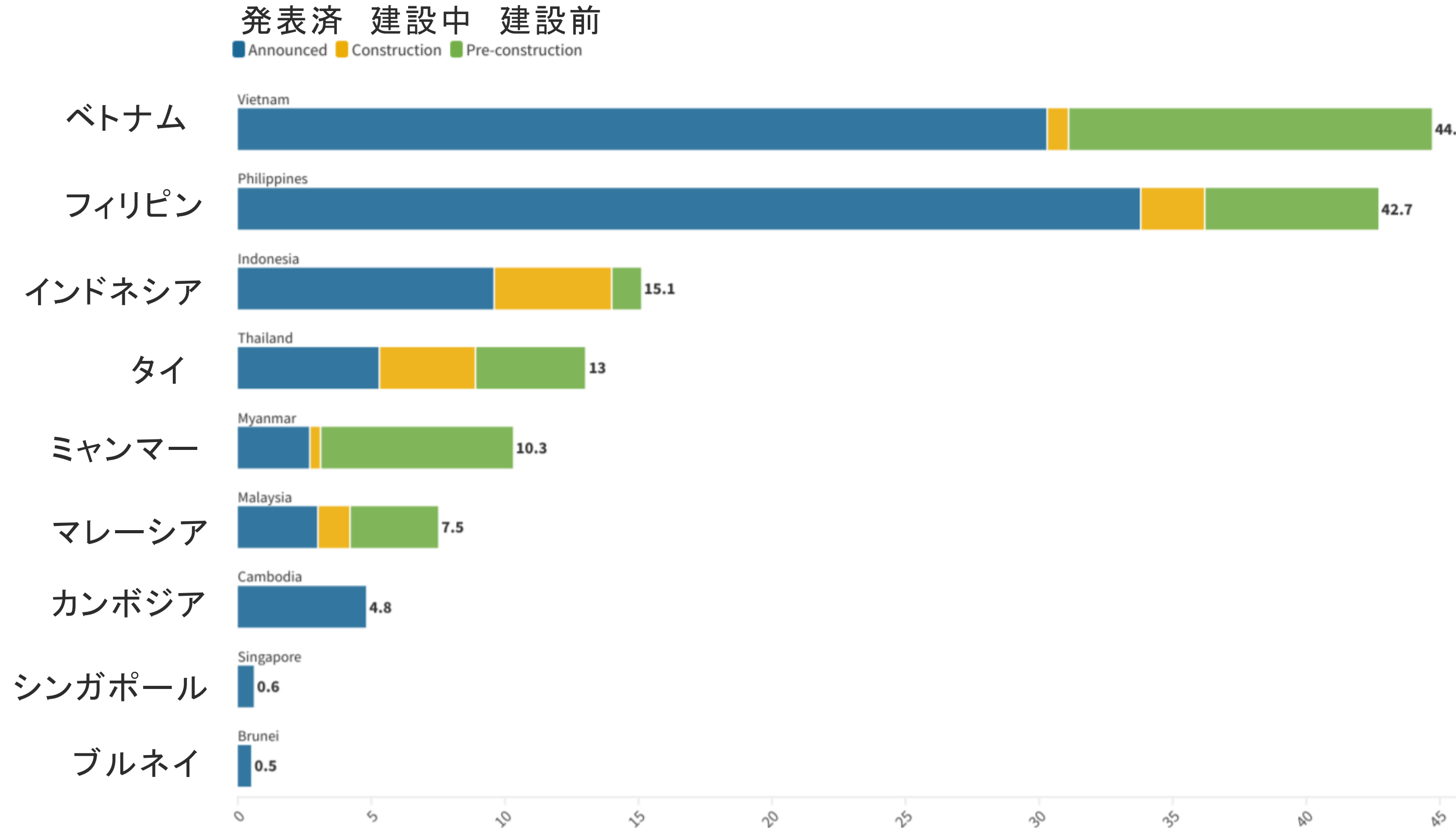
96.3 mtpa
(百万トン/年)

輸出能力

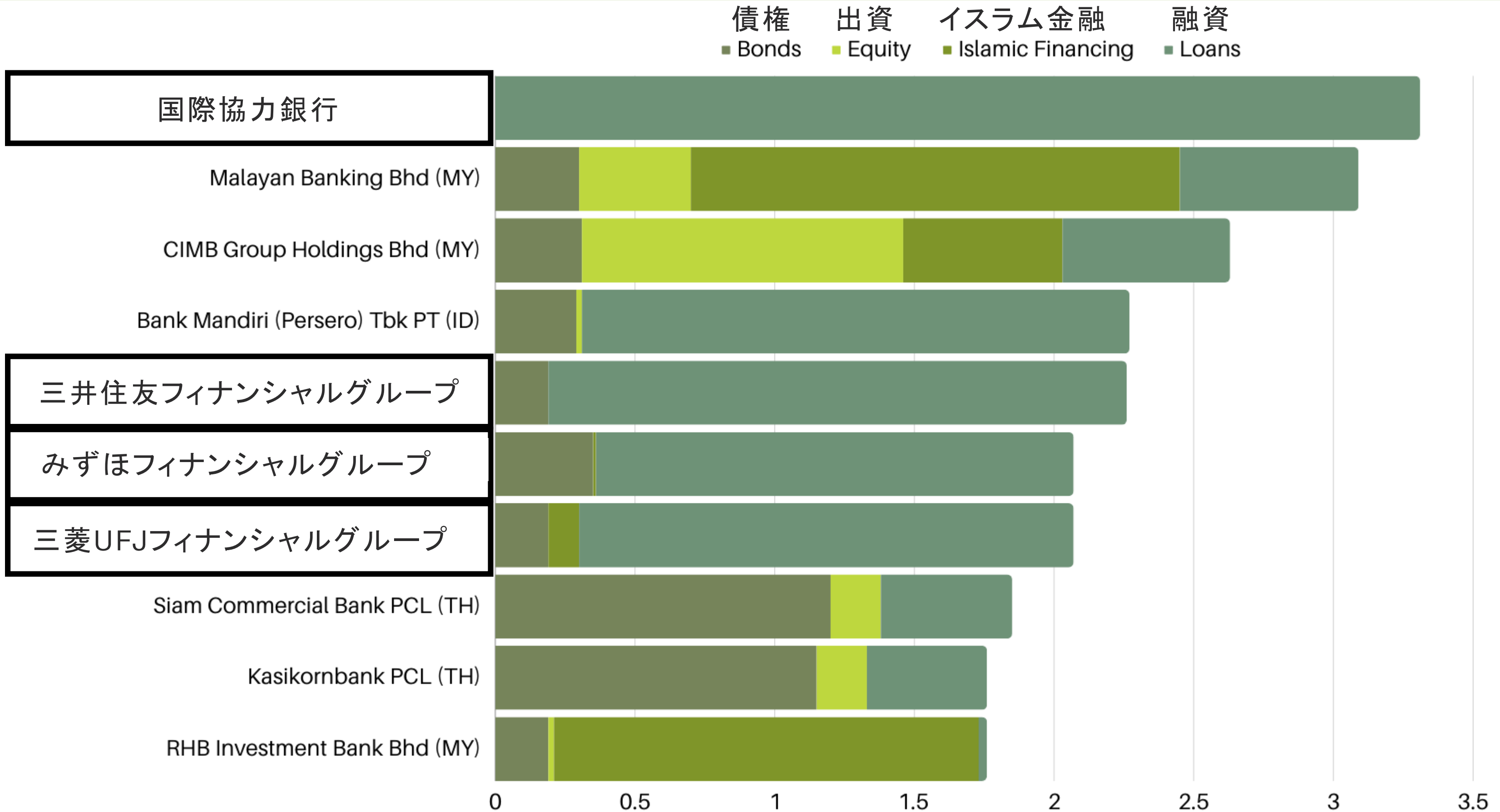
13.5 mtpa

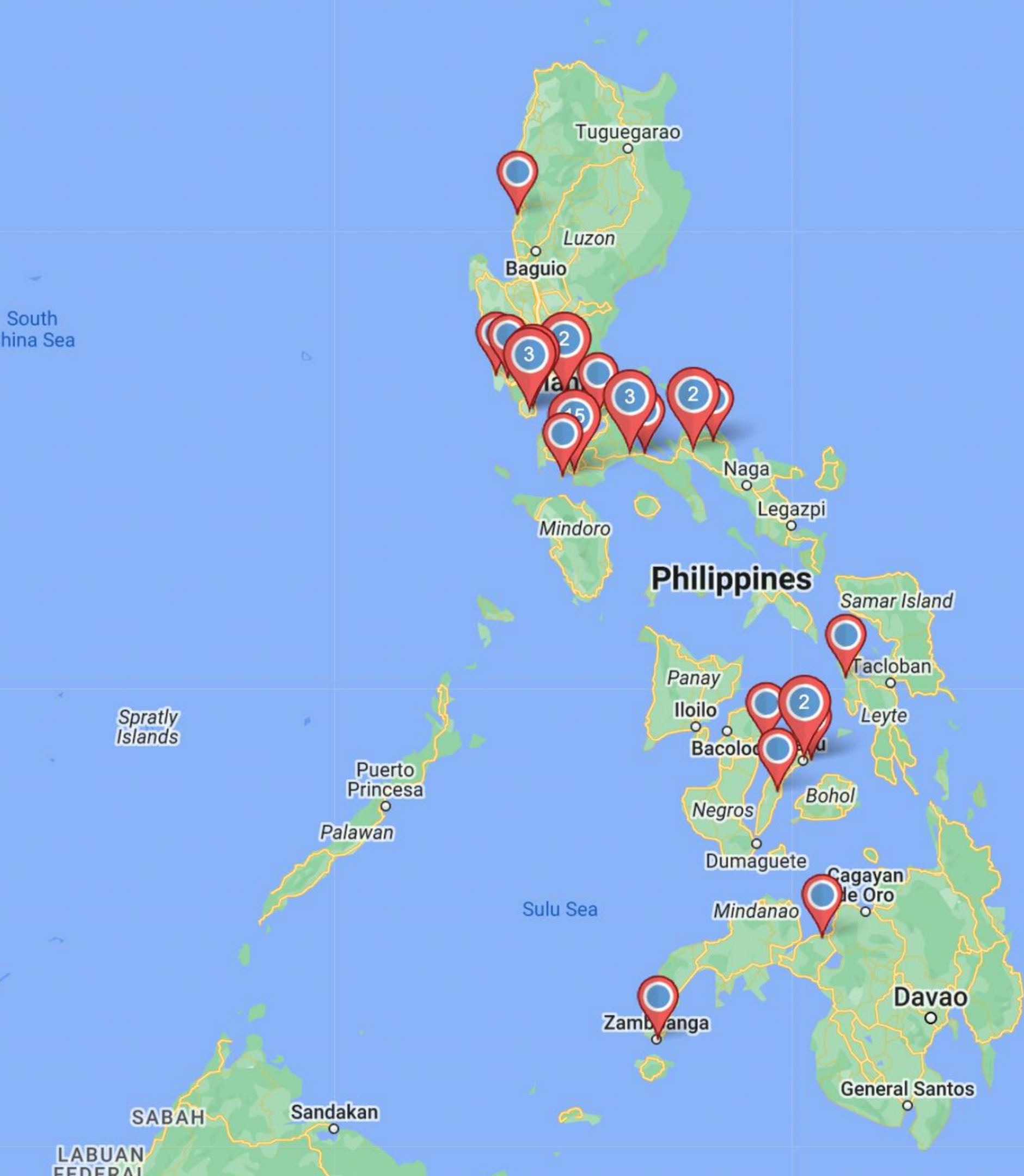
- 東南アジアで計画されているガス発電所の設備容量の半分以上はベトナムとフィリピンで、それぞれ44.8GWと42.6GWの設備容量が計画されている。
- 東南アジアにおけるLNG輸入ターミナル計画の能力は年間9,630万トンであり、ベトナムが年間3,600万トン、フィリピンが年間2,346万トンである。
- インドネシアは2つの輸出ターミナル(合計で年間1,150万トン)の開発を計画しており、トップを走っている。
- 東南アジアでは2016年以降、少なくとも165の金融機関がガス関連のプロジェクトやサービスの建設・操業に603億米ドルを注ぎ込んでいる。

2023年第3四半期現在の東南アジア諸国の ガス設備容量 計画ランキング (GW)



悲惨な未来への燃料投下：誰が**SEA**のガスに資金提供しているのか？





既設：
化石燃料ガス発電所 6基
計 3,423 MW

計画：
化石燃料ガス及びLNG(液化天然ガス)発電所 36基
計 39,301 MW

LNG 輸入ターミナル 12施設
計 年間2,806万トン

計画中のLNGターミナル
12施設のうち8施設、
発電所36基のうち8基が
バタンガス州に立地

ヴェルデ島海峡（VIP）

- コーラル・トライアングル（海洋生物多様性の世界的中心地とされる海域）の中央に位置するのが、ヴェルデ島航路（VIP）である。
- VIPは、10キロ圏内に300種以上のサンゴ、海中の岩の渓谷や岩礁地形、およそ1,736種の魚類を擁する海洋回廊である。
- この数は、世界で知られている沿岸魚種の60%近くを占め、世界で最も生物多様性の高い海洋生息地となっている。
- そのため、VIPは海のアマゾンに匹敵する。



June 2023



AG&P

SAN MIGUEL
CORPORATION

開発が最も進んでいるのは、国内最大のガス拡張企業であるサンミゲル社の1.7GWの発電所と、AG&P社のLNG輸入ターミナルの2つの事業である。



アトランティック・ガルフ・アンド・パシフィック



国際協力銀行 (JBIC)
JAPAN BANK FOR
INTERNATIONAL COOPERATION

大阪ガス



JBICと大阪ガスは1億米ドル相当を出資

海外交通・都市開発事業支援機構 (JOIN)



Japan Overseas Infrastructure Investment Corporation
for Transport & Urban Development



ISQUARED CAPITAL



ASiYA
INVESTMENTS

Your Gateway to Asia

SMC-EERIとAG&P-Linseedに対し、 5件の苦情が提出されている



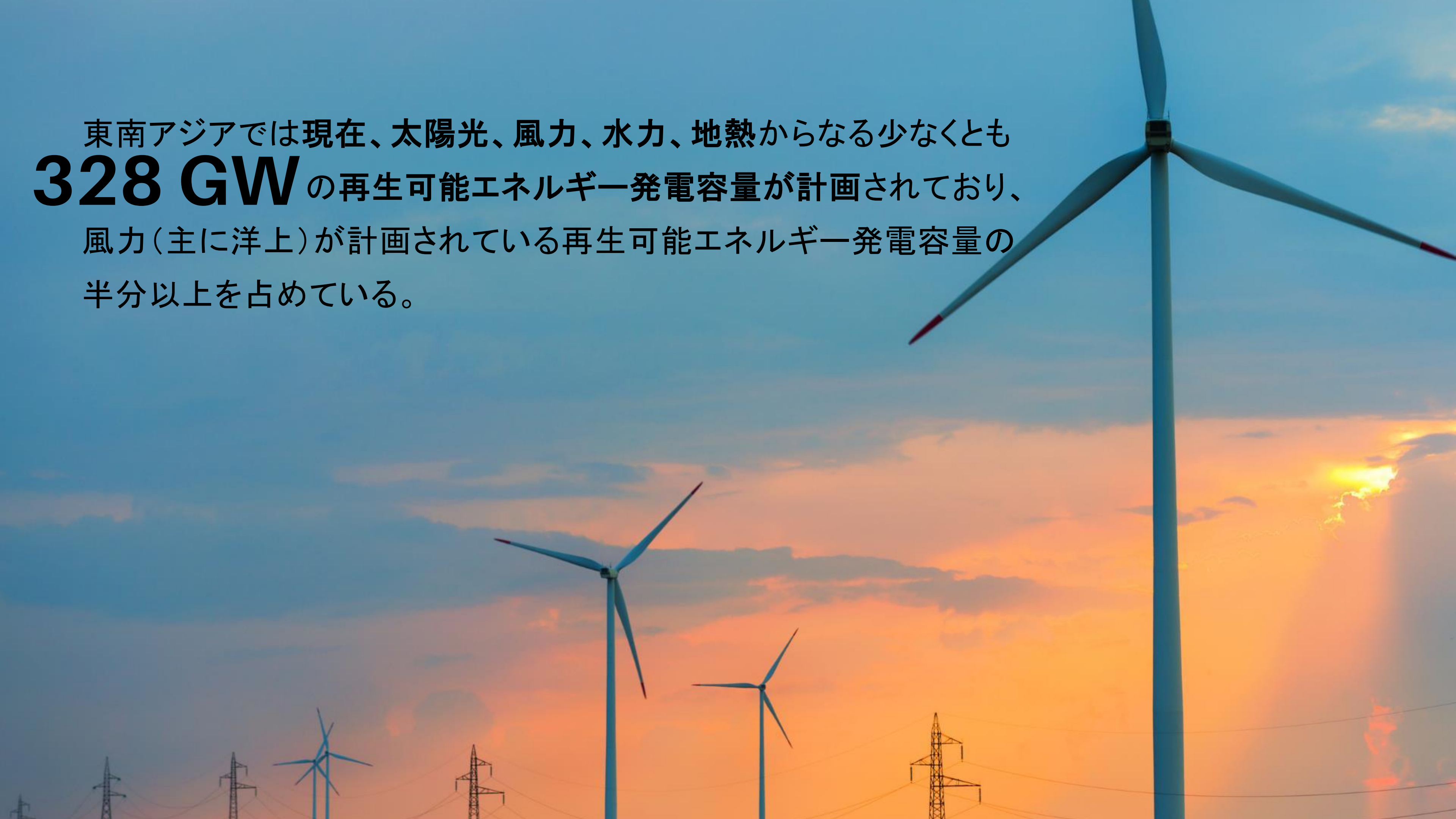
現場の第一線にいるコミュニティ、漁民グループ、市民社会は、AG&P社のリンシード・フィールド・コーポレーションのLNGターミナルとSMC社のエクセレント・エネルギー・リソース社の1.75GWのガス発電所を、拙速な土地転換、違法な木々の伐採、環境影響評価プロセスの違反を理由に訴えている。彼らはまた、事業用地の水域を水質ガイドライン違反地域として認定するよう求めている。

Look: ドローン写真によると、2022年8月現在、事業地ではすでに多くの開発が行われている。農地改革省(DAR)は、これがSMC-EERIとLinseed- AG&Pによって、適切な土地転換申請や許可なく行われたことを確認している。写真: B. Sepe

漁民たちは、AG&P社の行為について JBICに異議申立てを行った



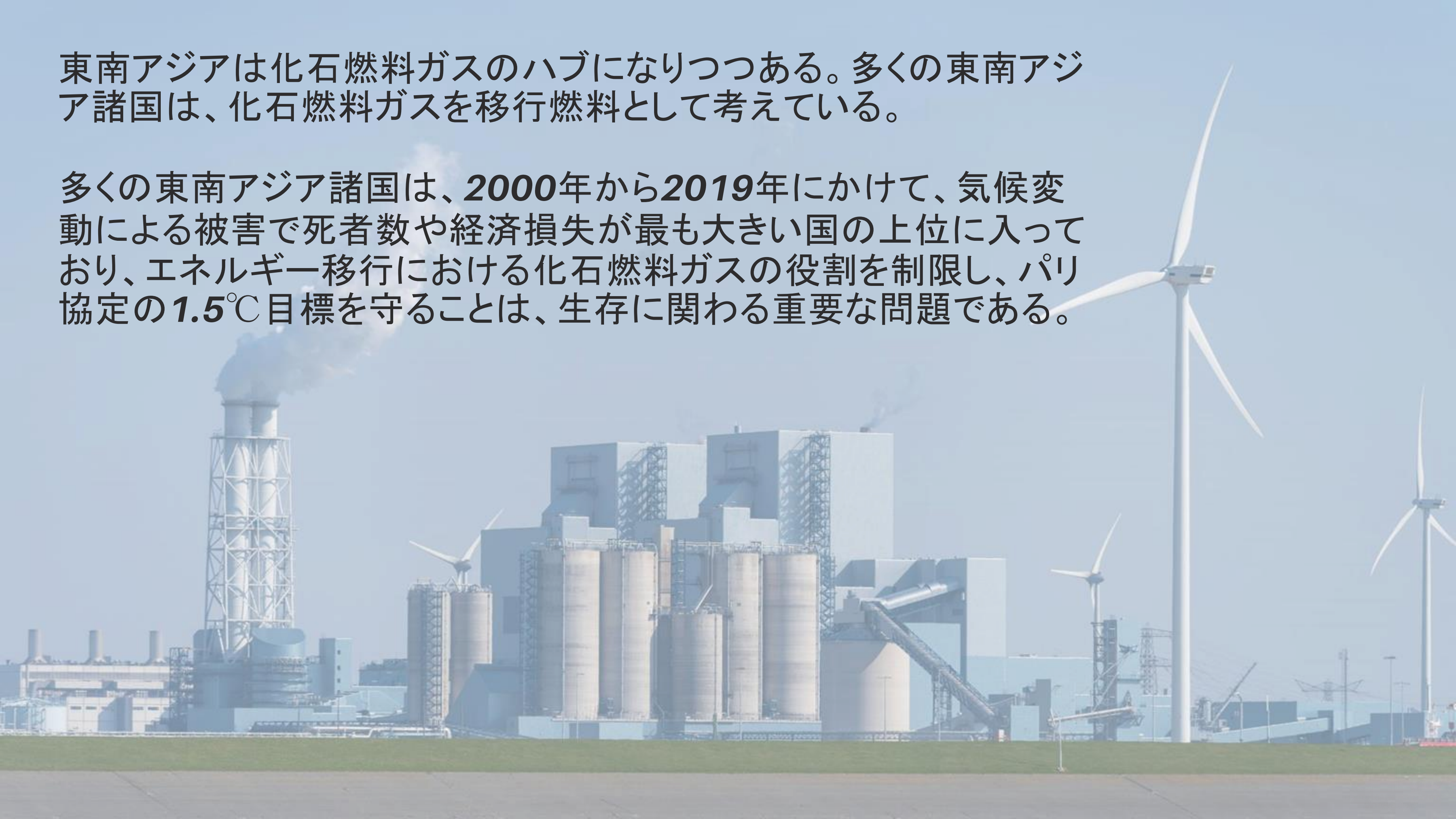




東南アジアでは現在、太陽光、風力、水力、地熱からなる少なくとも
328 GWの再生可能エネルギー発電容量が計画されており、
風力(主に洋上)が計画されている再生可能エネルギー発電容量の
半分以上を占めている。

東南アジアは化石燃料ガスのハブになりつつある。多くの東南アジア諸国は、化石燃料ガスを移行燃料として考えている。

多くの東南アジア諸国は、**2000年から2019年**にかけて、気候変動による被害で死者数や経済損失が最も大きい国の上位に入っており、エネルギー移行における化石燃料ガスの役割を制限し、パリ協定の**1.5°C**目標を守ることは、生存に関わる重要な問題である。





東南アジアのガスブームは、
気候に関する目標と
エネルギー移行を損なうものだ。



ceedphilippines.com

報告書の全文はこちらから:
Full report available here:



CEED報告書(2023年12月):
化石燃料の未来に立ち向かう
--再生可能エネルギーが豊富な東南アジアで
ガスによる遠回りの阻止を